



Title	プロチームスポーツとガバナンス～英国プロサッカーリーグを例に～ [要旨]
Author(s)	西崎, 信男
Citation	(2011-03-18)
Issue Date	2011-03-18
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/26573">http://hdl.handle.net/10069/26573</a>
Right	

This document is downloaded at: 2019-06-25T22:19:18Z

## 論文内容の要旨

専攻名	経営意思決定 専攻	氏名	西崎 信男
題名	プロチームスポーツとガバナンス～英国プロサッカーリーグを例に～		
<p>論文内容の要旨：(問題意識)</p> <p>プロスポーツの代表的な例である英国プロサッカーでは、リーグ全体売上高が史上最高を記録する一方で、個別クラブの倒産が急増している。なぜ倒産が発生しているのか、ガバナンスがなぜ機能しなかったのか。それが問題意識である。</p> <p>(本研究の目的及び研究の方法)</p> <p>本研究の目的は、英国リーグのケーススタディを基に、プロチームスポーツが存続するために必要なガバナンスのあり方、特にファイナンスとファンの経営参加の視点から、新しいガバナンスの方法を明らかにすることである。</p> <p>研究の方法として、</p> <p>(1) 英国プロサッカークラブの経営問題に着目し、先行研究を踏まえて、諸統計資料のほか現地実地調査により収集したデータに基づく定性分析も併せて、法制面を含めた制度的分析をベースにして、プロサッカークラブに関する経営学的分析を行う。</p> <p>(2) ファイナンス方法との関連で、セール・アンド・リースバック取引ならびに事業の証券化の各事例について、ガバナンスの問題ならびに効果を考察する。</p> <p>(3) ファンの経営参加の仕組みであるサポータートラストに関して、ガバナンスとファイナンスの両面から、クラブ経営における財務的安定性のメカニズムを考察する。</p> <p>(4) クラブの規模の違いによるガバナンス方法の可否についても考察する。</p> <p>(論文の構成)</p> <p>第1章では、英国プロサッカークラブ倒産の背景を分析することにより、英国法と欧州法との関係、サッカー関係者債務の優先化等が及ぼすガバナンスへの影響を考察する。</p> <p>第2章では、プロサッカークラブの所有形態の変遷による、上場株主、外国人投資家、サポータートラスト等ガバナンスの主体と、その経営への役割と影響度を分析する。欧州リーグのクラブ所有形態とガバナンスを総括した後、英国クラブにおけるガバナンスの事例研究を行う。</p> <p>第3章では、英国プロサッカークラブの金融イノベーションとガバナンスの問題を、事例研究を通じて明らかにする。相対取引であるセール・アンド・リースバック等新種商品の取引におけるガバナンスが働きにくい問題の経験を踏まえて、公募債による負債ファイナンスを活用したガバナンスを論じる。ビッグクラブを対象の、「事業の証券化」の事例研究を通して、大規模資金調達財務制限条項(コベナンツ)によるガバナンス強化を図る仕組みを示す。</p>			

氏名	西崎 信男
<p>第4章では、サポータートラストの仕組みを分析し、新たなガバナンスを考察する。諸形態の比較、ガバナンス強化との関連、トラストの仕組みと意義をまとめる。株主、債権者、消費者、地域住民と多様な側面を持つファンによるガバナンス強化が焦点となる。</p> <p>終章では、本論文のまとめと意義、残された課題と展望を結びとして論述する。</p> <p>(先行研究)</p> <p>米国チームスポーツの先駆的研究は、Rottenberg(1956)、Neale(1964)、Sloane(1971)であるが、英国サッカークラブのガバナンスの興味深い研究が Michie et al(2005) である。一般的にはガバナンス意識が低いサッカークラブであるが、上場によって意識が飛躍的に高まることを示した点、注目された。現実には、非上場化が進み、倒産も増加している。</p> <p>(結論：クラブ経営とガバナンス)</p> <p>経営の方向性の一つとして、プレミアリーグのトップクラブは、欧州のトップクラブと国境を超えたスーパーリーグを創設する方向が考えられる。オープンモデルのクローズド化の試みである。証券化での調達クラブガバナンスの強化のために、大きな効果がある。</p> <p>もう一方の方向性は、サポータートラストである。クラブ株主の立場を持ち、同時にクラブのファンで試合の消費者を兼ねる相互会社組織はクラブ経営のガバナンス強化のためには有効である。地域のファンからの資金支援を確固たるものにするために、重要な役割を果たす。大多数のクラブに該当する。</p> <p>(本論文の意義)</p> <p>(1) プロスポーツクラブの経営問題に着目し、欧米でも数少ない先行研究を踏まえて、諸統計資料のほか現地でのフィールドワークにより収集したデータに基づく定性分析も併せて、法制面を含む分析を実施した。このような新しい研究対象領域に基づく研究例はわが国では未だ見られず、積極的に詳細な制度分析の取り組みと調査を行った点で先駆的意味があると思われる。</p> <p>(2) ガバナンス研究について、事業体としてのサッカークラブないしリーグの経営や運営に大きく影響を及ぼしている財務状況、とりわけファイナンス方法との関連に焦点を当てて、金融イノベーションの視点からの考察も踏まえて、ガバナンスの問題点と展望を示していることに新規性があると考えられる。</p> <p>(3) 欧州でも研究例が少ないサポータートラストに関して、ガバナンスとファイナンス(レバレッジを含む)の両面からクラブ経営における財務的安定性に対する有効なメカニズムを考察し提起していることで、実践性も備えた研究となっている。また、将来日本への導入もありうるサポータートラストの経営学的研究について、本研究が日本では最初のものと考えられる。</p> <p>(残された課題と展望)</p> <p>(1) サポータートラストの日本での展開の可能性について、信託の仕組みを使うなど他の方法を研究していきたい。</p> <p>(2) 英国プロサッカーの革新性は、金融面で顕著である。公募債発行によるガバナンス強化について、さらに他の仕組みも含めて、事例を研究することによって、明らかにしていきたい。</p>	